

# 論語

子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔し。」

思ひて学ばざれば則ち殆ふし。」と。

子曰、「学而思則罔。思而不学則殆。」（為政）

子曰はく、「之を知る者は、之を好む者に如かず。

之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」と。

子曰、「知之者、不知好之者。好之者、不知如樂之

者。」（雍也）

子曰はく、「君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。」と。

子曰、「君子和而不同、小人同而不和。」（子路）

子曰はく、「徳有る者は、必ず言あり。

言有る者は、必ずしも徳あらず。仁者は必ず勇あり。

勇者は必ずしも仁あらず。」と。

子曰、「有徳者、必有言。有言者、不必有徳。

仁者必有勇。勇者不必有仁。」（憲問）

先生が言われた、「学んで、自分で考え、研究することをしなければ、学んだことがぼんやりしてよくわからない。自分で考えるだけで、人から学ぼうとしなければ、考えが狭く偏ってしまい危険である。」と。

先生が言われた、「ものごとを知識として知っている（だけの）者は、これを愛好する者に及ばない。これを愛好する者は、これを楽しんでゐる者には及ばない。」と。

先生が言われた、「立派な人物は、人と協調はするが、人に媚びたり流されたりはしない。つまらない人物は、人に媚びたり流されたりはするが、人と協調することはない。」と。

先生が言われた、「徳のある者は、よい言葉話す。（しかし）よい言葉話す者が、必ず徳が高いというわけではない。仁者は勇気がある。（しかし）勇気のある者が必ず仁者というわけではない。」と。

子曰はく、「過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ。」と。  
子曰、「過而不改、是謂過矣。」（衛靈公）

曾子曰はく、「吾日に吾が身を三省す。」

人の為に謀りて忠ならざるか。朋友と交はりて信ならざるか。習はざるを伝へしか。」と。

曾子曰、「吾日三省吾身。為人謀而不忠乎。」

与朋友交而不信乎。伝不習乎。」（学而）

5

先生が言われた、「過ちを犯してそのままにしておくことが、本当の過ちというものだ。」「過ちを犯しても、それを改めさえすれば、過ちとはいえない。」と。

曾子が言われた、「私は毎日何度も自分の行動を反省する。他人の相談にのつた際、真心が足りないことはなかっただろうか。友達と接する際、うそをつくようなことはなかっただろうか。先生から習ったことで、十分納得していないことを受け売りで教えたりはしなかっただろうか。」と。

- ① 子 先生。ここでは、孔子「前51頃・前56」のこと。孔子は、春秋時代の魯（現在の山東省の西部にあった国）の人。諸国を巡り、政治や道徳の思想を広めようとしたが受け入れられず、晩年は故郷で弟子たちの教育に専念した。
- ② 為政 編の名称。各編の名称は、それぞれの初めの句または次の句の数文字がそのままつけられている。ただし「子曰はく」で始まるものはその部分を除く。「雍也」「子路」「憲問」「衛靈公」「学而」も同様。
- ③ 曾子 「前505-前435頃」孔子の弟子。姓は曾、名は参、親孝行で知られる。

〈訓読文は『新釈漢文大系』論語による。〉